

修士課程 講義要綱等

1. 機械工学専攻

(1) 教育課程表

大学院学則 別表(1)

部類	コース	授 業 科 目	単 位 数	毎週授業時間数				備 考
				1年次		2年次		
				1	2	3	4	
[1] 講義	コース 共通	ベンチャービジネス特論	1	1	<1>			集中
		経済学特論	1	1	<1>			集中
		地球環境科学特論	1	1	<1>			集中
		外国文化特論	1	1	<1>			集中
		機械工学特別講義Ⅰ	1	1	<1>			集中
		機械工学特別講義Ⅱ	1			1	<1>	集中
		航空宇宙工学特論	1	1	<1>			集中
		生産管理特論	1	1	<1>			集中
		情報数理解析学特論	1		1			集中
	機械工学 コース	材料力学特論	2	2				
		材料強度学特論	2		2			
		環境材料工学特論	2	2				
		機械システム制御特論	2		2			
		溶融成形加工学特論	2	2				
		先端加工学特論	2		2			
		自動車運動力学特論	2		2			
		航空宇宙推進工学特論	2		2			
		熱流体シミュレーション特論	2		2			
		環境流体力学特論	2	2				
		トライボロジー設計学特論	2		2			
		加工組織学特論	2	2				
		強度設計学特論	2	2				
		熱エネルギーシステム設計学特論	2	2				
	変形加工学特論	2	2					
	機械システム 工学コース	生産システム特論	2	2				
		機械システム材料学特論	2		2			
		信号処理特論	2	2				
		制御工学特論	2	2				
		情報処理技術特論	2		2			
		情報機械特論	2		2			
燃焼工学特論		2		2				
流体工学特論		2	2					
メカトロニクス特論	2	2						
[2] 演習	機械工学 コース	材料力学特別演習	2		2			
		材料強度学特別演習	2	2		<2>		
		環境材料工学特別演習	2		2			
		機械システム制御特別演習	2	2		<2>		
		溶融成形加工学特別演習	2		2			
		先端加工学特別演習	2	2		<2>		
		自動車運動力学特別演習	2	2		<2>		
		航空宇宙推進工学特別演習	2		2			
		熱流体シミュレーション特別演習	2	2		<2>		
		環境流体力学特別演習	2		2			
		トライボロジー設計学特別演習	2	2		<2>		
		加工組織学特別演習	2		2			
		強度設計学特別演習	2		2			
		熱エネルギーシステム設計学特別演習	2		2			
	変形加工学特別演習	2		2				
	機械システム 工学コース	生産システム特別演習	2		2			
		機械システム材料学特別演習	2			2		
		信号処理特別演習	2		2			
		制御工学特別演習	2		2			
		情報処理技術特別演習	2			2		
情報機械特別演習		2			2			
燃焼工学特別演習	2			2				
流体工学特別演習	2		2					
メカトロニクス特別演習	2		2					
[3] 研究	コース 共通	特別研究Ⅰ	1.5	◎				
		特別研究Ⅱ	1.5		◎			
		特別研究Ⅲ	1.5			◎		
		特別研究Ⅳ	1.5				◎	
		学外研修	2	◎	<◎>			

(2) 教育内容

自動車産業や航空機産業をはじめとして、機械工学が広い範囲に主体的な関わりを持っていきます。これらの産業では、専門知識を修得した高度な機械技術者を強く求めています。本専攻では、このような社会的要請に応えるために、機械工学の基盤的分野での学力を高度に充実させるとともに、現実の複雑な諸課題に対する問題解決能力を育成します。さらに、創造性、コミュニケーション能力、リーダーシップの涵養にも配慮しています。

近年、機械システムに関する関心が高まっており、これに関する知識や技術が注目されています。本専攻では、機械工学コースのほかに機械システム工学コースを設け、自動車工学、航空宇宙工学、ロボット工学などの機械システムの教育・研究を行っています。

各界の先端的研究者や実務家による講義を専攻内共通科目や全専攻共通科目の中から受講でき、幅広い知識の修得に配慮しています。また、国公立の研究機関や企業の研究所で研究指導を受ける連携大学院方式も採用しています。

(3) 履修上の心得

2つのコースはそれぞれ特徴あるカリキュラムで構成されています。今日の科学技術や社会システムの高度化、専門化に対応した最新の知識や技術の習得が可能なように、「特論」は専門的知識の修得、「特別演習」は課題解決への意欲と方法の習得、「特別研究」は課題解決の実践と位置づけられます。各特別演習はそれぞれ特論と関連付けて実施されます。まずコースの特徴をよく理解して、履修科目を指導教員と相談の上選定して下さい。

また機械工学の分野において将来発展の可能性のある専門領域の科目として設定された「専攻内共通科目」や豊かな人間性と社会常識の会得を目指した「全専攻共通科目」の履修を強く薦めます。

(4) 授業科目・担当教員等

機械工学専攻

コース	授業科目	単位数	毎週授業時間数				担当教員
			1年次		2年次		
			1	2	3	4	
機械工学コース	材料力学特論	2	2				町屋教授
	材料力学特別演習	2		2			町屋教授
	材料強度学特論	2		2			高田教授
	材料強度学特別演習	2	2		<2>		高田教授
	環境材料工学特論	2	2				徳納非常勤講師
	環境材料工学特別演習	2		2			徳納非常勤講師
	機械システム制御特論	2		2			柚谷准教授
	機械システム制御特別演習	2	2		<2>		柚谷准教授
	溶融成形加工学特論	2	2				前田教授
	溶融成形加工学特別演習	2		2			前田教授
	先端加工学特論	2		2			萩野准教授
	先端加工学特別演習	2	2		<2>		萩野准教授
	自動車運動力学特論	2		2			
	自動車運動力学特別演習	2	2		<2>		
	航空宇宙推進工学特論	2		2			白石教授
	航空宇宙推進工学特別演習	2			2		白石教授
	熱流体シミュレーション特論	2		2			坪井教授
	熱流体シミュレーション特別演習	2	2		<2>		坪井教授
	環境流体力学特論	2	2				神崎教授
	環境流体力学特別演習	2		2			神崎教授
	トライボロジー設計学特論	2		2			宮本准教授
	トライボロジー設計学特別演習	2	2		<2>		宮本准教授
	加工組織学特論	2	2				田中(浩)教授
	加工組織学特別演習	2		2			田中(浩)教授
	強度設計学特論	2	2				西脇教授
	強度設計学特別演習	2		2			西脇教授
	熱エネルギーシステム設計学特論	2	2				
	熱エネルギーシステム設計学特別演習	2		2			
変形加工学特論	2	2				蔦森教授	
変形加工学特別演習	2		2			蔦森教授	
機械システム工学コース	生産システム特論	2	2				内海教授
	生産システム特別演習	2		2			内海教授
	機械システム材料学特論	2		2			吉田教授
	機械システム材料学特別演習	2			2		吉田教授
	信号処理特論	2	2				大嶋教授
	信号処理特別演習	2		2			大嶋教授
	制御工学特論	2	2				尾形教授
	制御工学特別演習	2		2			尾形教授
	情報処理技術特論	2		2			篠原教授
	情報処理技術特別演習	2			2		篠原教授
	情報機械特論	2		2			田中(淑)教授
	情報機械特別演習	2			2		田中(淑)教授
	燃焼工学特論	2		2			井原教授
	燃焼工学特別演習	2			2		井原教授
	流体工学特論	2	2				小里教授
	流体工学特別演習	2		2			小里教授
	メカトロニクス特論	2	2				
	メカトロニクス特別演習	2		2			
専攻内共通科目	特別研究Ⅰ	1.5	◎				各教員
	特別研究Ⅱ	1.5		◎			
	特別研究Ⅲ	1.5			◎		
	特別研究Ⅳ	1.5				◎	
	機械工学特別講義Ⅰ	1	1	<1>			未定
	機械工学特別講義Ⅱ	1			1	<1>	未定
	航空宇宙工学特論	1	1	<1>			奥村非常勤講師
	生産管理特論	1	1	<1>			
	情報数理解析学特論	1		1			
		1			1		
全研究科 共通科目	学外研修	2	◎	<◎>			専攻長
	ベンチャービジネス特論	1	1	<1>			武藤非常勤講師
	経済学特論	1	1	<1>			竹内(道)非常勤講師
	地球環境科学特論	1	1	<1>			大宮非常勤講師
	外国文化特論	1	1	<1>			クレムス・メツラー非常勤講師

材料力学特論 (Mechanics of Materials)

選択 2単位

1期

教授 町屋 修太郎

授業時間内の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

材料力学は、各種構造物や機器の強度設計上必要となる工学の基礎学問である。その内容は引張・圧縮、曲げおよびねじり荷重等を受ける基本形状部材の力学的解析法、または各種荷重が複合したり、2次元、3次元の物体形状に対する力学的解析手法、材料の各種機械的性質とそれを支配する法則、特に材料がどのような条件の下で破損や破壊するかの基準などについて、また残留応力の影響とその実測と応用の方法論などを含む。材料力学の基礎に加えて、以上に関連した以下の四つの分野について講義する。

- I. 応力・ひずみ場の解析法
- II. 疲労破壊
- III. 破壊力学
- IV. X線応力測定法

【授業の内容】

- ①基本用語と法則
- ②引張・圧縮問題
- ③応力・ひずみ場の理論的解析法
- ④応力・ひずみ場の数値的解析法
- ⑤応力・ひずみ場の実験的解析法
- ⑥まとめ1
- ⑦疲労破壊 I
- ⑧疲労破壊 II
- ⑨疲労破壊 III
- ⑩疲労破壊 IV
- ⑪破壊力学 I
- ⑫破壊力学 II
- ⑬残留応力の測定法の原理
- ⑭残留応力の測定法とその応用
- ⑮まとめ2

【学修到達目標】

- ①三軸応力状態の概念が理解できる。
- ②疲労における応力寿命の概念が理解できる。

【成績評価の方法】 課題提出(50%)、演習問題(50%)として評価する。

【教科書】 プリント配布

【参考書】

材料力学特別演習 (Seminar on Mechanics of Materials)

選択 2単位

2期

教授 町屋 修太郎

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

材料力学特別演習は、材料力学特論に続く授業であり、各種構造物や機器の強度設計上必要となる工学の応用演習である。材料力学特論では、以下の内容を中心に講義したが、これらに関連する問題解決の解析演習を、ケーススタディーを取り入れ実施する。また、専門英語に慣れるために英語の演習問題による課題演習を行う。

- I. 応力・ひずみ場の解析法
- II. 疲労破壊 (応力寿命)
- III. 疲労破壊 (ひずみ寿命)
- IV. X線応力測定法とその応用

【授業の内容】

- ①基本演習
- ②応力寿命演習 I
- ③応力寿命演習 II
- ④応力寿命演習 III
- ⑤応力寿命演習 IV
- ⑥ひずみ寿命演習 I
- ⑦ひずみ寿命演習 II
- ⑧ひずみ寿命演習 III
- ⑨ひずみ寿命演習 IV
- ⑩破壊力学演習 I
- ⑪破壊力学演習 II
- ⑫破壊力学演習 III
- ⑬残留応力の測定法演習 I
- ⑭残留応力の測定法演習 II
- ⑮総合演習

【学修到達目標】

- ①疲労におけるひずみ寿命の概念が理解できる。
- ②応力拡大係数を説明できる。
- ③き裂進展の概念が理解できる。

【成績評価の方法】 課題提出(50%)、演習問題(50%)として評価する。

【教科書】 プリント配布

【参考書】

材料強度学特論 (Applied Strength of Materials)

選択 2 単位 2 期 教授 高田 健

授業時間内の学修 60 時間 (毎週 4 時間)

【授業の概要】

工業における材料開発現場では、今後、従来よりもマイクロ視点での材料強度の理解が必要となる傾向にある。理解に必要な知識は結晶材料中の原子間結合状態の電子論的描写である。本講義では、電子状態を記述する量子力学の基礎とこれに基づいた結晶材料中原子の結合と材料特性を論じる。さらに、結晶材料の解析技術も論じる。

【学修到達目標】

- ① 結晶材料中原子間の結合を量子力学視点で説明できる。
- ② 結晶材料の各種特性を電子状態の視点で説明できる。
- ③ 結晶材料の解析技術を論じることができる。

【授業の内容】

- ① マルチスケールの現状と電子論の位置づけ
- ② 量子力学における電子の描写
- ③ 複素数による表示方法
- ④ シュレディンガー方程式の簡単な解
- ⑤ 波動関数を用いた物理量の描写
- ⑥ 原子：中心力場の一体問題
- ⑦ 原子：電子状態の表示方法
- ⑧ 分子：原子—原子の結合状態の見方
- ⑨ 結晶：格子振動と電気伝導性
- ⑩ 結晶：強度発現と析出強化機構
- ⑪ 結晶：強化機構の定式表示
- ⑫ 結晶：各種材料特性の近似表示方法
- ⑬ 結晶材料の解析技術 1
- ⑭ 結晶材料の解析技術 2
- ⑮ 結晶材料の解析技術 3

【成績評価の方法】 レポート(60%)、演習(40%)

【教科書】 プリント配布

【参考書】 物性論(裳華房)、量子力学(1)(裳華房)

材料強度学特別演習 (Seminar on Material Science and Engineering)

選択 2 単位 1・3 期 教授 高田 健

授業時間外の学修 60 時間 (毎週 4 時間)

【授業の概要】

結晶強度とそれに関する各種特性を理解するため、原子状態から分子状態を通して結晶状態に至るマイクロからマクロへの視点にて、特性変化および各種特性の計算手法を修得する。

原子状態では電子論をベースとした原子内部の状態を論じる。分子状態では原子—原子の結合描写を論じる。結晶状態では転位論の基礎および転位論に基づいた各種強化機構を論じる。さらに、強度に重要な影響を及ぼす原子拡散現象も論じる。最後に、それらを踏まえて最近の論文を解説する。

【学修到達目標】

- ① 最近の材料強度に関する研究開発レベルについて論じることができる。
- ② 析出・固溶強化による材料強度を論じることができる。
- ③ 電子状態に基づいた強化機構について論じることができる。

【授業の内容】

- ① 結晶の構造と結合力
- ② 原子状態 1
- ③ 原子状態 2
- ④ 分子状態
- ⑤ 結晶状態 1：転位論の基礎
- ⑥ 結晶状態 2：降伏と加工硬化
- ⑦ 結晶状態 3：固溶強化
- ⑧ 結晶状態 4：析出強化
- ⑨ 原子の拡散 1
- ⑩ 原子の拡散 2
- ⑪ 引張強度解析 1
- ⑫ 引張強度解析 2
- ⑬ 析出強化論文の解説 1
- ⑭ 析出強化論文の解説 2
- ⑮ 固溶強化論文の解説 1

【成績評価の方法】 レポート(40%)、演習(60%)

【教科書】 プリントと公開論文コピーの配布

【参考書】 材料強度の原子論(日本金属学会)、金属物理学序論(コロナ社)、物性論(裳華房)

環境材料工学特論 (Eco-Conscious Materials)

選択 2 単位 1 期 非常勤講師 徳納 一成 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

社会基盤を支える構造用金属材料の特徴である「強度」と「加工性」を具備した信頼性おける実用材料の設計のためには、「原子構造」および「結晶構造」の本質を理解したうえで材料の「変形」を支配する因子を俯瞰し、需要家のニーズに応えるべく如何なる因子を機能させていくかを念頭におかねばならない。

本講義では、原子構造、結晶構造の基本を理解したうえで「格子欠陥」の概念を学習し、これらをもとに、変形の支配因子である「転位」を力点として塑性変形を考える基礎を学習することを目的とする。加えて、格子欠陥を媒介とした「拡散」についても学び、材料の状態図、マルテンサイト変態についての基礎も理解していく。

【学修到達目標】

- ① 代表的金属材料の結晶構造について説明できる。
- ② 金属材料中の格子欠陥の役割について説明できる。
- ③ 金属材料における転位と塑性変形の関係について説明できる。
- ④ 鉄鋼の状態図の詳細が説明できる。

【成績評価の方法】 演習 (40%)、レポート (60%)

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 金属物理学序論 (コロナ社)

【授業の内容】

- ① 原子構造①
- ② 原子構造②
- ③ 結晶構造
- ④ 格子欠陥
- ⑤ 拡散
- ⑥ 塑性変形
- ⑦ 転位の基礎
- ⑧ 転位と塑性変形
- ⑨ 転位の観察
- ⑩ 金属の強さ
- ⑪ 材料の熱力学
- ⑫ 状態図
- ⑬ マルテンサイト変態
- ⑭ 実用材料 (鉄鋼材料)
- ⑮ 実用材料 (非鉄金属材料、非金属材料)

環境材料工学特別演習 (Seminar on Eco-Conscious Materials)

選択 2 単位 2 期 非常勤講師 徳納 一成 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

環境材料工学特論での基礎学習をもとに、結晶中線状格子欠陥の「転位」の挙動把握を基軸として、実用構造材料に対して「強度」と「加工性」を与えるためのスキルを、ケーススタディを交えて学習する。

【学修到達目標】

- ① ピーチとケラーの式について説明できる。
- ② 刃状転位とらせん転位の応力場について説明できる。
- ③ 転位間の相互作用について説明できる。
- ④ 金属の加工硬化について具体的例を挙げて説明できる。
- ⑤ 金属材料の強化機構について説明できる。

【授業の内容】

- ① 転位の概念
- ② 転位の弾性論 I
- ③ 転位の弾性論 II
- ④ 転位にはたらく力
- ⑤ 転位の結晶学 I
- ⑥ 転位の結晶学 II
- ⑦ 転位の結晶学 III
- ⑧ 塑性変形の転位論 I
- ⑨ 塑性変形の転位論 II
- ⑩ 材料の強化機構 I
- ⑪ 材料の強化機構 II
- ⑫ 疲労と破壊の基礎
- ⑬ ケーススタディ I
- ⑭ ケーススタディ II
- ⑮ ケーススタディ III

【成績評価の方法】 演習 (40%)、レポート (60%)

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 入門転位論 (裳華房)

機械システム制御特論 (Mechanical Systems Control)

選択 2単位 2期 准教授 杉谷 啓 授業時間外の学修 60 時間 (毎週 4 時間)

【授業の概要】

現代では、様々な機械装置が制御によって仕様要求通りの動作を実現している。大半の場合は学部にて学んだ伝達関数によってシステムを表現する古典的制御でも十分であるが、近年では相互に作用する複数のパラメータを同時に制御する多入力多出力が求められる機会が多くなっており、状態方程式を用いてシステムを表現する現代制御の考え方が重要になってきている。そこで本講義では、古典的制御の設計法とともに現代制御理論について学ぶことで現代機械システムの制御の基礎および制御機構設計法の習得することとする。

【学修到達目標】

- ①状態方程式を用いた動的システムのモデル化ができる。
- ②機械システムの安定性解析ができる。
- ③機械の基本的制御システムを設計できる。

【授業の内容】

- 1.制御の基礎
- 2.システムの状態方程式表現①
- 3.システムの状態方程式表現②
- 4.システムの伝達関数
- 5.位相面軌道
- 6.システムの安定性①
- 7.システムの安定性②
- 8.PID 制御①
- 9.PID 制御②
- 10.可制御性と可観測性①
- 11.可制御性と可観測性②
- 12.状態フィードバック制御とオブザーバ①
- 13.状態フィードバック制御とオブザーバ②
- 14.最適制御①
- 15.最適制御②

【成績評価の方法】講義での課題(60%)とレポート(40%)の評価、*出席は欠かせない必要要件

【教科書】

【参考書】JSME テキストシリーズ「制御工学」, 「演習制御工学」, 吉川・井村著「現代制御論」昭晃堂

機械システム制御特別演習 (Seminar on Mechanical Systems Control)

選択 2単位 1・3期 准教授 杉谷 啓 授業時間外の学修 60 時間 (毎週 4 時間)

【授業の概要】

本講義ではシミュレーションおよび設計・実装を通して機械システム制御特論および学部の講義で学んだ制御設計法の習得を目的とする。ここでは主に基本的な位置決め機構の一つである直動システムをベースにモデル化・解析・設計・実装・性能試験を通して行い、制御設計の一連の流れを学ぶ。

【学修到達目標】

- ①制御系技術文書を読むことができる。
- ②機械システムの安定性解析ができる。
- ③コンピュータを活用して機械の基本的制御システムを設計できる。

【授業の内容】

- 1.制御の理論と概要
- 2.コンピュータによる機械システムのモデル表現①
- 3.コンピュータによる機械システムのモデル表現②
- 4.コンピュータによる制御系解析①
- 5.コンピュータによる制御系解析②
- 6.コンピュータによる制御系設計
- 7.コンピュータを用いたサーボ制御
- 8.直動システムのモデリング・解析①
- 9.直動システムのモデリング・解析②
- 10.PID 制御による直動システムのサーボ制御
- 11.最適制御による直動システムのサーボ制御
- 12.倒立振子のモデリング・解析
- 13.倒立振子を用いた総合実習①
- 14.倒立振子を用いた総合実習②
- 15.倒立振子を用いた総合実習③

【成績評価の方法】講義での課題(60%)とレポート(40%)の評価、*出席は欠かせない必要要件

【教科書】

【参考書】

溶融成形加工学特論 (Casting and Solidification Processing)

選択 2単位

1期

教授 前田 安郭

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

ものづくりの基本となる金属の溶融凝固現象を主軸として、溶融及び凝固現象を用いた成形加工法の特徴、技術、理論について学ぶ。加えて、その周辺の加工技術や支援ツールについても学習する。

【学習到達目標】

- ① 铸造 CAE を概説できる。
- ② 铸造 CAE の伝熱・凝固解析を理解している。
- ③ 铸造 CAE の湯流れ解析を理解している。

【授業の内容】

- ① 铸造 CAE とは
- ② 表面積、体積、モジュラスなど基本情報計算
- ③ 熱伝導解析の基礎
- ④ 熱伝導の数値解析
- ⑤ 凝固解析の基礎
- ⑥ 凝固の数値解析 1
- ⑦ 凝固の数値解析 2
- ⑧ 引け巣の推定
- ⑨ 流動の基礎方程式 1
- ⑩ コントロールボリューム法
- ⑪ 流動の基礎方程式 2
- ⑫ 通気性物質内流れの解析
- ⑬ 湯流れの数値解析
- ⑭ 自由表面を伴う流れ解析
- ⑮ 粒子法と離散要素法

【成績評価の方法】 講義での課題(80%)とレポート(20%)の評価

【教科書】 コンピュータ伝熱・凝固解析入門—铸造プロセスへの応用 大中逸雄著(丸善)※絶版に付きコピー配布

【参考書】 铸造工学、金属凝固に関する書籍、学術雑誌

溶融成形加工学特別演習 (Seminar on Casting and Solidification Processing)

選択 2単位

2期

教授 前田 安郭

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

ものづくりの基本となる金属の溶融凝固現象を主軸として、溶融及び凝固現象を用いた成形加工法、周辺技術、支援ツールの現状と動向について輪講と演習を交えて学習する。

【学習到達目標】

- ① 押湯方案を説明できる。
- ② 砂型鑄物鑄造方案を説明できる。
- ③ 铸造 CAE のシミュレーション結果を説明できる。

【授業の内容】

- ① 铸造方案とは
- ② 湯口設計と押湯方案
- ③ 鑄鉄鑄物の概要
- ④ 砂型鑄造法の概要
- ⑤ 生型鑄造とその他の鑄造法
- ⑥ 後処理と品質検査
- ⑦ 鑄鉄鑄物の方案
- ⑧ 方案設計と铸造 CAE (1)
- ⑨ 方案設計と铸造 CAE (2)
- ⑩ 方案設計と铸造 CAE (3)
- ⑪ 方案設計と铸造 CAE (4)
- ⑫ 方案設計と铸造 CAE (5)
- ⑬ 方案設計と铸造 CAE (6)
- ⑭ 方案設計と铸造 CAE (7)
- ⑮ 鑄込み演習
- ⑯ 鑄物観察と考察

【成績評価の方法】 講義での課題(80%)とレポート(20%)の評価

【教科書】 学術雑誌

【参考書】 铸造工学、金属凝固に関する書籍、学術雑誌

先端加工学特論 (Progress Machining)

選択 2単位 2期 准教授 萩野 将広

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

切削や研削などの機械加工はものづくりの基本技術である。本講義では切削加工，研削加工に関する講義に加えて，積層造形などの付加加工を可能とする加工技術と原理について講義する。また，ものづくりに携わる技術者として生産工程や加工方法など「作るための方法」を合理的に選択する能力が求められており，これについて各種加工方法の基礎から先端技術まで合わせて講義する。

【学修到達目標】

- ①切削加工で起きる工具損傷について材料の被削性と関連付けて説明ができる。
- ②切削加工における工具・材料間で起きる力学的特性について説明できる。
- ③砥粒加工が持つ特徴や特性について加工メカニズムから説明ができる。
- ④生産工程に合わせて加工方法や工作機械を選定するための合理的な説明ができる。

【成績評価の方法】 演習問題 (40%) および課題レポートの内容 (60%) により評価する

【教科書】 なし (適宜プリント配布)

【参考書】 機械製作要論 (養賢堂) など

【授業の内容】

- ① 機械加工法技術序論
- ② 工作機械とは
- ③ 切削加工とは
- ④ 切削加工における力学的挙動
- ⑤ 被削性
- ⑥ 工具損傷と摩耗
- ⑦ 砥粒加工法の原理と特徴
- ⑧ 微細加工法の特徴
- ⑨ レーザー加工法の原理・特徴
- ⑩ アディティブマニファクチャリングとは
- ⑪ 電子ビーム加工法の原理
- ⑫ 電子ビーム加工法の特徴
- ⑬ イオン加工法の原理と特徴
- ⑭ 化学的加工法の原理と特徴
- ⑮ 総括・課題説明・Q&A

先端加工学特別演習 (Seminar on Progress Machining)

選択 2単位 1・3期 准教授 萩野 将広

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

機械加工において重要な位置を占める切削加工，研削加工に加えて，アディティブマニファクチャリングに関し，内外の技術論文を使い輪講と演習を行う。

また，機械加工に必要な不可欠な工作機械，特に複合加工機について実際の適用例を挙げ実学に基づき輪講と演習を行う。

【学修到達目標】

- ①切削加工に関する内外の技術論文を読み取りその内容について説明ができる。
- ②アディティブマニファクチャリングの特性と特徴を理解し，その技術の適応について説明できる。
- ③複合加工機の特性と特徴を理解し，その技術の適応について説明できる。

【授業の内容】

- ① 切削機構と材料挙動の理解(1)
- ② 切削機構と材料挙動の理解(2)
- ③ 切削機構と材料挙動の理解(3)
- ④ 研削機構と材料挙動の理解(1)
- ⑤ 研削機構と材料挙動の理解(2)
- ⑥ 切削加工と研削加工の総括(1)
- ⑦ レーザービーム加工の理解(1)
- ⑧ レーザービーム加工の理解(2)
- ⑨ アディティブマニファクチャリングの理解(1)
- ⑩ アディティブマニファクチャリングの理解(2)
- ⑪ アディティブマニファクチャリングの理解(3)
- ⑫ 工作機械の理解(1)
- ⑬ 工作機械の理解(2)
- ⑭ 複合加工機の理解(1)
- ⑮ 複合加工機の理解(2)と統括

【成績評価の方法】 演習問題 (40%) およびレポートの内容 (60%) により評価する

【教科書】 なし (適宜プリント配布)

【参考書】 機械製作要論 (養賢堂) など

<機械工学専攻：機械工学コース>

航空宇宙推進工学特論 (Advanced Aerospace Propulsion Technology)

選択 2単位 2期 教授 白石 裕之 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

学部（機械工学科）の開講科目「航空宇宙工学」と関連して、宇宙機・航空機の熱流体・音響現象、特に推進システムの最新の動向について理解を深めてもらう。まずは気体の圧縮性についての基本的事項から始め、最新の動向や具体的な工学応用例についてまでを論じる。

【学習到達目標】

- ① 機械工学に必要なエネルギーについての大分類ができる。
- ② 航空機と宇宙機の違いを理解し、具体例を正確に挙げることができる。
- ③ 航空騒音の原因および対策について簡単に述べることができる。
- ④ 非化学（非燃焼・先端）推進システムの具体例を挙げることができる。

【授業の内容】

- ① エネルギーの種類
- ② 学部講義・航空宇宙工学の概要
- ③ 化学エンジンと先端（非化学）エンジン
- ④ ジェットエンジンの原理と応用
- ⑤ 打ち上げロケットと軌道
- ⑥ 海外出張報告・最新トピックの紹介など
- ⑦ 空力音の基礎と航空騒音
- ⑧ 衝撃波・爆轟波と推進システムへの応用
- ⑨ 光エネルギーの特徴と利用法
- ⑩ 光宇宙推進システムの概要
- ⑪ 光宇宙推進システムの応用
- ⑫ 電気宇宙推進システムの概要
- ⑬ その他の先端宇宙推進システムの動向
- ⑭ まとめ・課題発表
- ⑮ 課題精説

【成績評価の方法】 平常点（小テスト・受講態度など）50%及び課題提出 50%による総合評価

【教科書】 なし

【参考書】 特に指定しない。

航空宇宙推進工学特別演習 (Seminar on Advanced Aerospace Propulsion Technology)

選択 2単位 3期 教授 白石 裕之 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

航空宇宙推進工学特論と関連して、航空宇宙エンジンを中心とした航空宇宙工学関連のトピック紹介および担当者が企業等で体験した具体的問題について論じ、その検討及び演習を行う。

なお本演習では、宇宙機・航空機システムなどの動向について理解を深めてもらうため、論文やコンピュータ解析の実例についても紹介する。

【学習到達目標】

- ① 航空宇宙工学に特有の科学技術用語について、具体的に理解する。
- ② 先端航空宇宙技術に関する論文やマニュアルを理解できる。
- ③ 航空宇宙シミュレーションの重要性について述べることができる。

【授業の内容】

- ① 航空宇宙工学と宇宙推進システム
- ② 航空機・宇宙機の熱設計の実際
- ③ 様々な宇宙エンジンと推進効率
- ④ 熱輻射と光の吸収
- ⑤ 電磁波の性質とエネルギー機器への応用
- ⑥ 光・実磁波の航空宇宙機への応用
- ⑦ 国際会議（学会発表）の実際と技術英語
- ⑧ 気体の実在効果とシミュレーション上の扱い
- ⑨ 航空宇宙工学における数値流体力学の応用
- ⑩ 交通工学全般における騒音現象
- ⑪ 航空騒音の最新評価法
- ⑫ 学会報告（最新の動向）
- ⑬ 航空宇宙推進で考えられる諸問題と先端技術
- ⑭ まとめ・課題発表
- ⑮ 課題精説

【成績評価の方法】 平常点（小テスト・受講態度など）50%及び課題提出 50%による総合評価

【教科書】 なし

【参考書】 特に指定しない。

熱流体シミュレーション特論 (Thermal Fluid Simulation)

選択 2単位 2期 教授 坪井 涼

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

熱流体シミュレーションの基礎となる、熱工学・流体工学の支配方程式の基礎から復習を行い、数値計算法によるシミュレーションの方法を学ぶ。また、自作のプログラムおよび商用ソフトウェアを用い、実際にシミュレーションを行う手法を学び、その手法について知識を深める。

【学習到達目標】

- ① 数値計算の概要を説明できる。
- ② 熱流体工学で用いられる基礎方程式を理解している。
- ③ 差分法を用いたプログラムが作成できる。

【授業の内容】

- ① 数値計算・計算工学の概要 (1)
- ② 数値計算・計算工学の概要 (2)
- ③ 有限差分法 (1)
- ④ 有限差分法 (2)
- ⑤ 定常熱伝導を対象とした数値解析 (1)
- ⑥ 定常熱伝導を対象とした数値解析 (2)
- ⑦ 定常熱伝導を対象とした数値解析 (3)
- ⑧ レイノルズ方程式を用いた数値解析 (1)
- ⑨ レイノルズ方程式を用いた数値解析 (2)
- ⑩ レイノルズ方程式を用いた数値解析 (3)
- ⑪ 座標変換 (1)
- ⑫ 座標変換 (2)
- ⑬ ナビエ・ストークス方程式を用いたシミュレーション (1)
- ⑭ ナビエ・ストークス方程式を用いたシミュレーション (2)
- ⑮ 総括

【成績評価の方法】 演習・レポート (100%)

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】

熱流体シミュレーション特別演習 (Seminar on Thermal Fluid Simulation)

選択 2単位 1・3期 教授 坪井 涼

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

熱流体シミュレーション特論で講義した内容に関する演習を行い、理解を深め、自ら課題を解決する能力を養う。また、最近の学術的研究資料の輪講を適宜行う。

【学習到達目標】

- ① マルチフィジックスについて説明ができる。
- ② 熱流体シミュレーションと実験の関係について説明ができる。
- ③ 学术界・産業界で用いられている最先端の熱流体シミュレーションについて説明ができる。

【授業の内容】

- ① 数値計算 (シミュレーション) の基礎
- ② マルチフィジックス現象のシミュレーション (1)
- ③ マルチフィジックス現象のシミュレーション (2)
- ④ 熱流体シミュレーションの実例 (1)
- ⑤ 熱流体シミュレーションの実例 (2)
- ⑥ 熱流体シミュレーションの実例 (3)
- ⑦ 熱流体シミュレーションの実例 (4)
- ⑧ 熱流体工学におけるシミュレーションと実験の関係 (1)
- ⑨ 熱流体工学におけるシミュレーションと実験の関係 (2)
- ⑩ 熱流体工学におけるシミュレーションと実験の関係 (3)
- ⑪ 熱流体工学におけるシミュレーションと実験の関係 (4)
- ⑫ 熱流体シミュレーションの最先端 (1)
- ⑬ 熱流体シミュレーションの最先端 (2)
- ⑭ 熱流体シミュレーションの最先端 (3)
- ⑮ 総括

【成績評価の方法】 演習・レポート (100%)

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】

環境流体力学特論 (Environmental Fluid Dynamics)

選択 2 単位 1 期 教授 神崎 隆男 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

大気・海洋中や工業装置内の流動現象は、乱流である場合が多く、流体中で物質移動・熱移動・化学反応を伴うケースが多い。

本講義では、学部で学習した流体力学をもとに、時間的・空間的に変化する乱流現象の工学的な取扱い方を輸送現象の観点から学習する。

講義の前半では、基礎的な乱流輸送現象・乱流理論等について学習し、後半では、実用的な実験手法やデータ解析手法、数値予測手法等を学習する。適宜、受講生のプレゼンテーション、演習、レポート提出を実施する。

【学修到達目標】

- ①運動量・熱・物質の輸送方程式を理解できる。
- ②連続の式と Navier-Stokes 方程式を導出できる。
- ③Navier-Stokes 方程式から Reynolds 方程式を導出できる。
- ④乱流モデルを説明できる。

【成績評価の方法】 演習・レポート提出(40%)とプレゼンテーション内容(60%)

【教科書】 適宜プリントを配付

【参考書】 機械系講義シリーズ③流体力学の基礎(1) 中林功一 他 コロナ社
機械系講義シリーズ④流体力学の基礎(2) 中林功一 他 コロナ社
Transport Phenomena R.B.Bird 他 WILEY
Turbulent Flows Stephen B. Pope, Cambridge University Press

【授業の内容】

- ①輸送現象 1 (運動量輸送)
- ②輸送現象 2 (熱輸送)
- ③輸送現象 3 (物質輸送)
- ④輸送現象に関する演習
- ⑤乱流現象 1
- ⑥乱流現象 2
- ⑦乱流理論
- ⑧乱流現象に関する演習
- ⑨実験手法概説 1
- ⑩実験手法概説 2
- ⑪実験手法・実験データ解析に関する演習
- ⑫数値解析手法概説 1
- ⑬数値解析手法概説 2
- ⑭数値解析手法に関する演習
- ⑮環境流体力学全般に関する演習

環境流体力学特別演習 (Seminar on Environmental Fluid Dynamics)

選択 2 単位 2 期 教授 神崎 隆男 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

環境流体力学特論で学習した内容に基づき、学術雑誌等より、環境流体力学に関するトピックスを選定し、各回毎に受講学生に割り当てる。担当の学生は、演習として、内容に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で討議を行う。専門的・技術的な内容について適宜、講義を行う。

【学修到達目標】

- ①乱流の特徴を説明できる。
- ②乱流の拡散性を説明できる。
- ③乱流の時間スケール・長さスケールを説明できる。
- ④乱流輸送現象を説明できる。

【授業の内容】

- ①乱流輸送現象
- ②気相中の乱流輸送現象 1
- ③気相中の乱流輸送現象 2
- ④気相中の乱流輸送現象 3
- ⑤液相中の乱流輸送現象 1
- ⑥液相中の乱流輸送現象 2
- ⑦液相中の乱流輸送現象 3
- ⑧混相流中の乱流輸送現象 1
- ⑨混相流中の乱流輸送現象 2
- ⑩混相流中の乱流輸送現象 3
- ⑪混相流中の乱流輸送現象 4
- ⑫反応乱流中の輸送現象 1
- ⑬反応乱流中の輸送現象 2
- ⑭反応乱流中の輸送現象 3
- ⑮総合討議

【成績評価の方法】 レポート提出 (40%) とプレゼンテーション内容 (60%)

【教科書】 適宜プリントを配付

【参考書】 A First Course in Turbulence Henk Tennekes, John L. Lumley, The MIT Press
Turbulent Flows Stephen B. Pope, Cambridge University Press

トライボロジー設計学特論 (Tribological Designing)

選択 2単位 2期 准教授 宮本 潤示

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

トライボロジーとは、摺動部における摩擦・摩耗潤滑を総合的にとらえた学問と技術である。機械システムには必ず摺動部が存在し、適切な状態で運転をしないと、効率の低下ばかりでなく機械システムそのものの破損に至る場合もある。また、機械システムの省エネルギー化や地球環境への負担低減などの製品への付加価値を高める即効的な技術として考えられる。

本特論では摺動部の適切な設計能力を養うために、摩擦・摩耗・潤滑の基礎について適宜受講者のプレゼンテーションを交えて学ぶ。

【学修到達目標】

- ① 固体表面の接触状態について説明できる。
- ② 摩擦および摩耗の理論を説明できる。
- ③ ストライバック線図を説明できる。
- ④ 流体潤滑、弾性流体潤滑を説明できる。

【授業の内容】

- ① トライボロジーとは
- ② 表面形状および粗さ曲線
- ③ 表面の性質、固体表面の接触
- ④ 固体表面の摩擦 (1)
- ⑤ 固体表面の摩擦 (2)
- ⑥ 固体表面の摩擦 (3)
- ⑦ 固体表面の摩耗 (1)
- ⑧ 固体表面の摩耗 (2)
- ⑨ 流体潤滑と弾性流体潤滑 (1)
- ⑩ 流体潤滑と弾性流体潤滑 (2)
- ⑪ 境界潤滑と混合潤滑 (1)
- ⑫ 境界潤滑と混合潤滑 (2)
- ⑬ 潤滑剤
- ⑭ トライボロジーの応用 (1)
- ⑮ トライボロジーの応用 (2)

【成績評価の方法】 演習・レポート (100%)

【教科書】 はじめてのトライボロジー： 佐々木信也、他 講談社

【参考書】 基礎から学ぶトライボロジー： 橋本巨 森北出版社

トライボロジー設計学特別演習 (Seminar on Tribological Designing)

選択 2単位 1・3期 准教授 宮本 潤示

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

トライボロジー設計学特論で学習した内容に基づき、表面の分析法や表面改質法などの応用について学ぶ。内容については受講者のプレゼンテーションを交えて学習を行う。また、最近のトライボロジー研究の資料の輪講を行う。

【学修到達目標】

- ① 表面観察分析法について説明できる。
- ② 表面化学分析法について説明できる。
- ③ 表面改質法について説明できる。

【授業の内容】

- ① トライボロジーの基礎
- ② 表面観察分析法 (1)
- ③ 表面観察分析法 (2)
- ④ 表面観察分析法 (3)
- ⑤ 表面化学分析法 (1)
- ⑥ 表面化学分析法 (2)
- ⑦ 表面化学分析法 (3)
- ⑧ 表面化学分析法 (4)
- ⑨ 摩擦摩耗試験法
- ⑩ トライボマテリアルと表面改質法 (1)
- ⑪ トライボマテリアルと表面改質法 (2)
- ⑫ トライボマテリアルと表面改質法 (3)
- ⑬ 近年のトライボロジー研究 (1)
- ⑭ 近年のトライボロジー研究 (2)
- ⑮ 近年のトライボロジー研究 (3)

【成績評価の方法】 演習・レポート (100%)

【教科書】 はじめてのトライボロジー： 佐々木信也、他 講談社

【参考書】 基礎から学ぶトライボロジー： 橋本巨 森北出版社

加工組織学特論 (Microstructure Evolution in Processing)

選択 2単位 1期 教授 田中 浩司 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

機械部品の製造においては、金属素材に歪みを加えて成形した上で、熱を加えて接合したり必要な機械的特性を付与する。素材の化学成分、表面性状、そして成形加工の履歴は高温プロセス中にマイクロ組織形成に影響を与え、製品の品質に直結する。

本講では組織変化の基礎として自由エネルギーから相平衡と駆動力の考え方を解説し、主に拡散変態の速度論に重点を置いて講義する。その後、素材の高温加工による歪み、表面の酸化や変質層などが製品特性に及ぼす影響について事例を示し、相変態による組織形成過程が変化していることを学習する。

【学習到達目標】

- ① 2成分系の自由エネルギー曲線を使って、相平衡や相変態の駆動力を説明できる
- ② 核生成・成長による相変態の機構を説明し、拡散変態の速度式を記述できる
- ③ 高温加工が母相組織(オーステナイト)に及ぼす影響から、冷却後の鉄鋼組織の特徴と特性を考察できる

【成績評価の方法】 課題レポートによる評価

【教科書】 講義資料の配付

【参考書】 金属材料組織学 (朝倉書店), ミクロ組織の熱力学 (講座・現代の金属学 材料編, 日本金属学会)

【授業の内容】

- ① 系と成分, 固溶体と固溶限
- ② 2系状態図の基本形-1
- ③ 2系状態図の基本形-2
- ④ 純物質の内部エネルギーと相変化
- ⑤ 溶体の自由エネルギーと相平衡
- ⑥ 多元系の状態図
- ⑦ 成分の化学ポテンシャル, 相変態の駆動力
- ⑧ 核生成・成長-1
- ⑨ 核生成・成長-2
- ⑩ 拡散変態の速度式
- ⑪ 鉄鋼のフェライト変態・パーライト変態
- ⑫ 無拡散変態 - マルテンサイト変態
- ⑬ 酸化・還元のパテンシャル
- ⑭ 高温酸化と加工変質層
- ⑮ 熱加工技術の最先端～レーザ加工を中心に

加工組織学特別演習 (Seminar on Microstructure Evolution)

選択 2単位 2期 教授 田中 浩司 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

近年、機械部品の高性能な少量生産機が登場し、その加工工程は高効率かつ短時間化している。特に加熱の急速・局所化が進められ、品質に影響する材料組織の変化を予見する解析手法が重要になっている。

本演習では、熱力学計算ソフト(ThermoCalc)教育版により実用鋼の融点や相変化が起こる組成を予測し、多元系の状態図を作成する方法を実習する。

同じソフトの拡散シミュレーション機能を用いて、実際の熱処理を想定した計算を行い、材料の均質化や相変態を速度論的にとらえ、添加元素の影響を理解する。

【学習到達目標】

- ① 熱力学計算によって、多成分系の相平衡を決定することができる。
- ② 鉄鋼の熱処理の原点であるフェライトの核生成と成長を、シミュレーションを通じて定量的に把握する。
- ③ 焼入性におよぼす添加元素の影響を説明できる。

【授業の内容】

- ① 講義：酸化・還元熱力学
- ② 輪読：高温酸化の基礎と実際
- ③ 講義：CALPHAD法の概要
- ④ 演習：熱力学計算-1 1点平衡, step計算
- ⑤ 演習：熱力学計算-2 A3点の決定ほか
- ⑥ 演習：熱力学計算-3 析出の駆動力ほか
- ⑦ 演習：熱力学計算-4 2元系・3元系状態図ほか
- ⑧ 講義：多元系の拡散と化学ポテンシャル
- ⑨ 演習：拡散計算-1 偏析の均質化ほか
- ⑨ 演習：拡散計算-2 移動界面(ステファン問題)ほか
- ⑩ 解説：焼入れ性に対するMn, Crの影響
- ⑪ 演習：フェライト成長速度のシミュレーション
- ⑫ 計算：焼入性への添加元素の影響解析
- ⑬ 計算まとめ, 発表準備
- ⑭ グループ発表
- ⑮ 解説：受講者希望に応じて内容決定

【成績評価の方法】 実験/シミュレーションの発表内容による評価

【教科書】 配布資料

【参考書】 関連学術論文

強度設計学特論 (Strength Design)

選択 2 単位 1 期 教授 西脇 武志

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

機械部品の設計においては、CAD と容易に連携できる線形の構造解析が多く活用されている。これらの設計手段を有効に活用するためには、応力やひずみなどの理解が不可欠である。その基礎となっている固体力学を学び、構造解析の理解を深める。

【学習到達目標】

- ① 応力の座標変換ができる。
- ② 応力の不変量、ミーゼス応力が説明できる。
- ③ ひずみについて説明できる。
- ④ 構成式について説明できる。
- ⑤ 仮想仕事の原理について説明できる。

【授業の内容】

- ① CAE による部品の強度設計
- ② 力学、数学の基礎
- ③ コーシーの式
- ④ 応力の定義
- ⑤ 力のつりあい
- ⑥ 応力の座標変換
- ⑦ 応力の不変量
- ⑧ 色々な応力
- ⑨ 変位と変形
- ⑩ 変位勾配
- ⑪ 微小ひずみ、有限ひずみ
- ⑫ 応力とひずみの関係 (構成式)
- ⑬ エネルギー原理
- ⑭ 仮想仕事の原理
- ⑮ まとめと総合演習

【成績評価の方法】 レポートの提出

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 講談社 はじめての固体力学 有光隆

強度設計学特別演習 (Seminar on Strength Design)

選択 2 単位 2 期 教授 西脇 武志

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

強度設計学特論で学習した固体力学が、CAE のソフトウェアでどのように利用されているかを学ぶ。また、ソフトウェアの実習を通じて、部品の強度の設計、評価方法を学ぶ。

【学習到達目標】

- ① 有限要素法の仕組みが分かる。
- ② CAE ソフトウェアの基本的な使い方が理解できる。
- ③ CAE ソフトウェアによる線形静解析ができる。

【授業の内容】

- ① 弾性力学の基礎
- ② 形状関数
- ③ 1次元問題と有限要素法
- ④ 2次元問題への拡張
- ⑤ 2次元問題と有限要素法 1
- ⑥ 2次元問題と有限要素法 2
- ⑦ 有限要素法の演習
- ⑧ ソフトウェアの操作方法
- ⑨ ソフトウェアを用いた構造解析の演習 1
- ⑩ ソフトウェアを用いた構造解析の演習 2
- ⑪ ソフトウェアを用いた構造解析の演習 3
- ⑫ ソフトウェアを用いた構造解析の演習 4
- ⑬ ソフトウェアを用いた構造解析の演習 5
- ⑭ ソフトウェアを用いた構造解析の演習 6
- ⑮ まとめと総合演習

【成績評価の方法】 レポートの提出

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 日刊工業新聞社 CAE のための材料力学 遠田治正

変形加工学特論 (Sheet Metal Forming)

選択 2 単位 1 期 教授 蔦森 秀夫 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

自動車は省燃費と衝突安全性の相反する課題を克服するべく、自動車ボディの構成・材料が大きく変わり、グローバルで激しく競争している。一部の高級車では構造部材として炭素繊維強化プラスチックが採用され、量販車であっても 1300MPa 級程度の高張力鋼板の採用も当たり前になっている。本講義では、自動車ボディを構成する高張力鋼板や軟鋼板などに求められる性能やプレス成形の難しさを理解するために必要な知識について解説する。近年のプレス技術に不可欠なプレス成形シミュレーションの利用および研究のために必要な基本知識と弾塑性力学について学ぶ。

【学習到達目標】

- ① 応力テンソルを理解し応力・ひずみの座標変換ができる。
- ② 弾性変形および塑性変形について説明できる。
- ③ 塑性ポテンシャルと関連流動則を説明できる。
- ④ 板材成形の異方性について説明できる。
- ⑤ Hill の局部くびれ理論に基づき、板のくびれ方向を計算できる。

【成績評価の方法】 期末レポートの提出により評価する

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 共立出版 弾塑性力学の基礎 吉田総仁

【授業の内容】

- ① 自動車ボディプレス部品の成形シミュレーション
- ② 材料の塑性変形挙動
- ③ 単純な応力状態における弾塑性問題
- ④ 2次元応力テンソル
- ⑤ ひずみテンソルと座標変換
- ⑥ 降伏条件
- ⑦ 応力ひずみ解析の基礎方程式
- ⑧ ひずみ増分理論と全ひずみ理論
- ⑨ 加工硬化の表現
- ⑩ 塑性ポテンシャルと関連流動則
- ⑪ 弾塑性変形に関するドラッカーの仮説と最大塑性仕事の原理
- ⑫ 薄板の塑性不安定問題
- ⑬ 異方性降伏条件
- ⑭ 2軸応力下の不安定
- ⑮ まとめと総合演習

変形加工学特別演習 (Seminar on Sheet Metal Forming Simulation)

選択 2 単位 2 期 教授 蔦森 秀夫 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

本演習は変形加工学特論の内容を受けて、プレス成形シミュレーションソフトを実際に使ってみる。材料特性、工具の形状、工具の動き、などの条件を入力し、解析する。さらに、解析条件や材料特性値などの諸条件を変更し、その影響を確認し、まとめた結果を発表する。前半に汎用のソフトウェア LS-DYNA を用い、後半ではプレス専用ソフト JSTAMP-NV を用いる。

【学習到達目標】

- ① 動的陽解法有限要素ソフト LS-DYNA の基本的な使い方を理解し、簡単なキーワード入力ができる。
- ② 適切なモデルの作成とメッシュ分割ができる。
- ③ 解析を通じて材料特性と異方性の関係について説明できる。
- ④ 解析を通じてスプリングバックと材料特性の関係、およびプレス条件の関係について説明できる。
- ⑤ 解析を通じて歩留まりとプレス条件の関係について説明できる。

【授業の内容】

- ① 解析目的の理解とソフトウェア操作方法
- ② 引張試験モデルの解析 1
- ③ 引張試験モデルの解析 2
- ④ 引張試験モデルの解析 3
- ⑤ 引張試験モデルの解析 4
- ⑥ 引張試験モデルのプレゼンテーション
- ⑦ ハット絞りモデルのスプリングバック解析 1
- ⑧ ハット絞りモデルのスプリングバック解析 2
- ⑨ ハット絞りモデルのスプリングバック解析 3
- ⑩ ハット絞りモデルのスプリングバック解析 4
- ⑪ ハット絞りモデルのプレゼンテーション
- ⑫ 歩留まり検討モデルの解析 1
- ⑬ 歩留まり検討モデルの解析 2
- ⑭ 歩留まり検討モデルの解析 3
- ⑮ 歩留まり検討モデルのプレゼンテーション

【成績評価の方法】 解析内容のプレゼンテーション (3 回) により評価する

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】

<機械工学専攻：機械システム工学コース>

生産システム特論 (Advanced Manufacturing Systems Engineering)

選択 2単位

1期

教授

内海 能亜

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

生産システムの基本となる材料・機械・加工・生産管理技術について論究する。さらに今後の生産システムの発展について考察する。

【学修到達目標】

- ① AI やホームページ, また, 学術・技術書や学術論文を自らから調査でき, 図などを使い分かりやすく, これまでの変遷・内容, 今後の動向, さらに, 自分の考えをまとめることができる。
- ② 調査した内容をプレゼンテーションすることができる。
- ③ 材料技術・機械技術・加工技術・生産管理技術について理解している。

【授業の内容】

- ① ガイダンス
- ② 生産システムの役割と意義
- ③ 金属材料の応用と発展
- ④ 高分子材料の応用と発展
- ⑤ セラミックスの応用と発展
- ⑥ 複合・機能材料の応用と発展
- ⑦ 機械の生産と応用と発展
- ⑧ 機械設備の応用と発展
- ⑨ 計測・制御技術の応用と発展
- ⑩ エネルギー変換技術の応用と発展
- ⑪ 工業材料の加工性
- ⑫ 成形加工の応用と発展
- ⑬ 除去加工の応用と発展
- ⑭ 付加工の応用と発展
- ⑮ 生産管理としての QC 活動

【成績評価の方法】 レポート (60%), プレゼンテーション (20%), 小テスト (20%)

【教科書】 配布プリントおよびガイダンスで指示する。

【参考書】 配布プリントおよびガイダンスで指示する。

生産システム特別演習 (Special Exercises on Manufacturing Systems Engineering)

選択 2単位

2期

教授

内海 能亜

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

生産システム特論で得た情報や知識を応用し, 日英論文の輪読やその内容についての議論する。また, 関連する内容について演習問題を解き, 個人又はグループミーティングによって問題解決をする。

【学修到達目標】

- ① 日英論文について理解することができる。
- ② 自ら問題を発見し, 課題を設けることができる。
- ③ 演習問題を個人またはグループで議論することができ, 問題を解決することができる。

【授業の内容】

- ① ガイダンス
- ② 生産システムにおける学術論文の輪読
- ③ 生産システムにおける演習
- ④ 金属材料における学術論文の輪読
- ⑤ 金属材料における演習
- ⑥ 機械の生産における学術論文の輪読
- ⑦ 機械の生産における演習
- ⑧ 工作機械と自動化における学術論文の輪読
- ⑨ 工作機械と自動化における演習
- ⑩ 材料加工における学術論文の輪読 1
- ⑪ 材料加工における演習 1
- ⑫ 材料加工における学術論文の輪読 2
- ⑬ 材料加工における演習 2
- ⑭ 生産管理としての QC における学術論文の輪読
- ⑮ QC における演習

【成績評価の方法】 レポート (60%), プレゼンテーション (20%), 小テスト (20%)

【教科書】 配布プリントおよびガイダンスで指示する。

【参考書】 配布プリントおよびガイダンスで指示する。

<機械工学専攻：機械システム工学コース>

機械システム材料学特論 (Material for Mechanical System)

選択

2単位

2期

教授

吉田 昌史

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

機械、構造物を構成する材料は、種々のシステムの構成要素として位置づけられる。このため、システムの立場から材料をとらえることが重要となる。この講義では、機械システムに要求される材料の性質を学び、材料の性質が実際にどのような工業材料に利用され、活用されているのかを学ぶ。

【学修到達目標】

- ①機械システムのための材料の重要性、利用分野を理解している
- ②材料の物理的・化学的性質を理解している
- ③材料の機械的性質を理解している
- ④鉄鋼、非鉄金属、無機・有機材料の特徴を理解し、設計や加工などに利用できる

【授業の内容】

- ①材料の目的と機能
- ②材料の加工法 (1)
- ③材料の加工法 (2)
- ④材料の物理的性質 (1)
- ⑤材料の物理的性質 (2)
- ⑥材料の化学的性質 (1)
- ⑦材料の化学的性質 (2)
- ⑧金属材料の基礎 (1)
- ⑨金属材料の基礎 (2)
- ⑩工業材料の機械的性質 (1)
- ⑪工業材料の機械的性質 (2)
- ⑫鉄鋼材料
- ⑬非鉄材料
- ⑭無機材料
- ⑮有機材料

【成績評価の方法】 課題レポート (100%)

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 W. D. キャリスター著 材料の科学と工学 培風館

[1] 材料の微細構造 [2] 金属材料の力学的性質 [3] 材料の物理的・化学的性質 [4] 材料の構造・製法・設計

機械システム材料学特別演習 (Seminar on Material for Mechanical System)

選択

2単位

3期

教授

吉田 昌史

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

機械システム材料学特論で学んだ内容を基礎とし、論文輪読を通して理解を深める。

【学修到達目標】

- ①文献調査内容を理解し、正しく説明できる。
- ②最近の研究開発事例についての知識を持っている。

【授業の内容】

- ①材料と加工技術に関する演習
- ②材料の加工法に関する演習 (1)
- ③材料の加工法に関する演習 (2)
- ④材料の物理的性質に関する演習 (1)
- ⑤材料の物理的性質に関する演習 (2)
- ⑥材料の化学的性質に関する演習 (1)
- ⑦材料の化学的性質に関する演習 (2)
- ⑧金属材料の基礎に関する演習 (1)
- ⑨金属材料の基礎に関する演習 (2)
- ⑩工業材料の機械的性質に関する演習 (1)
- ⑪工業材料の機械的性質に関する演習 (2)
- ⑫鉄鋼材料に関する演習
- ⑬非鉄材料に関する演習
- ⑭無機材料に関する演習
- ⑮有機材料に関する演習

【成績評価の方法】 課題レポート (100%)

【教科書】 適宜プリントを配布

【参考書】 W. D. キャリスター著 材料の科学と工学 培風館

[1] 材料の微細構造 [2] 金属材料の力学的性質 [3] 材料の物理的・化学的性質 [4] 材料の構造・製法・設計

信号処理特論 (Signal Processing)

選択 2 単位 1 期 教授 大嶋 和彦 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

自動制御に関連する技術のうち、観測信号を処理して雑音を除去する技術や、予備実験から得られるデータを統計的に処理して制御対象の数式モデルの近似式を作成する技術は、非常に重要なものである。これらの基礎となる信号処理を講義する。

はじめに、連続時間信号のもつ周波数成分を解析する方法を述べ、それに基づいて希望する周波数特性をもつアナログフィルタの設計方法を説明する。

次に、時系列信号（離散時間データ）を用いた周波数解析（離散フーリエ変換）を学ぶ。さらに、連続時間信号をサンプルし、それを復元する際に生じる現象を述べ、その注意事項を説明する。

【学修到達目標】

- ① 正弦波信号の直交性が説明できる。
- ② フーリエ級数展開の意義が説明できる。
- ③ 矩形波信号をフーリエ級数展開できる。
- ④ エリアシングについて説明できる。
- ⑤ デジタル信号処理の有効性が説明できる。

【成績評価の方法】 中間レポート（30%）、期末レポート（70%）

【教科書】

【参考書】 岩田彰編著「デジタル信号処理」コロナ社、浜田望著「よくわかる信号処理」オーム社

信号処理特別演習 (Seminar on Signal Processing)

選択 2 単位 2 期 教授 大嶋 和彦 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

序盤では制御工学特論で学んだ内容を制御系設計用 CAD である MATLAB/SIMULINK を用いて実際に信号処理を行ない、その内容を確認する。

中盤では離散時間信号（時系列）処理のためのシステムの表現方法を解説する。また、終盤では希望する入出力特性を持つデジタルフィルタの設計法を解説する。これらの解説の際には、序盤と同様に MATLAB/SIMULINK を利用して演習を行い、その有効性を確認する。

入出力信号からシステムの特性を推定するための最小二乗法についても演習を交えて簡単に解説する。

【学修到達目標】

- ① 時系列データを FFT 処理により周波数成分に変換できる。
- ② 任意の周波数の正弦波形が作成できる。
- ③ FFT 処理における時系列信号のデータ数とサンプリング周波数との関係を説明できる。
- ④ バンドパスフィルタを作成できる。
- ⑤ バンドパスフィルタを用いてノイズ除去ができる。

【成績評価の方法】 レポート評価

【教科書】

【参考書】 岩田彰編著「デジタル信号処理」コロナ社、小林一行著「MATLAB ハンドブック」秀和システム

【授業の内容】

- ① 信号処理の概要
- ② 連続時間信号の解析（信号の周波数成分）
- ③ 周期信号のフーリエ級数展開 1
- ④ 周期信号のフーリエ級数展開 2
- ⑤ 信号のフーリエ変換 1
- ⑥ 信号のフーリエ変換 2
- ⑦ アナログ信号のフィルタリング
- ⑧ アナログフィルタの設計法
- ⑨ 信号のデジタル化
- ⑩ 離散フーリエ変換 1
- ⑪ 離散フーリエ変換 2
- ⑫ 高速フーリエ変換
- ⑬ 標準化信号の復元
- ⑭ システム同定
- ⑮ まとめ

【授業の内容】

- ① 制御工学特論のまとめ
- ② 連続時間信号の解析
- ③ 周期信号のフーリエ級数展開
- ④ 信号のフーリエ変換
- ⑤ アナログフィルタの設計
- ⑥ 離散フーリエ変換
- ⑦ 離散時間信号の扱い
- ⑧ z 変換
- ⑨ 伝達関数と差分方程式
- ⑩ デジタルフィルタの設計 1
- ⑪ デジタルフィルタの設計 2
- ⑫ デジタルフィルタのシミュレーション 1
- ⑬ デジタルフィルタのシミュレーション 2
- ⑭ システム同定
- ⑮ まとめ

制御工学特論 (Control Engineering)

選択 2 単位 1 期 教授 尾形 和哉 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

マイクロエレクトロニクス革命によって、今日の自動制御はシステム制御の様相を一段と高めつつある。その理論が現代制御理論である。状態空間法に基づく現代制御理論は多変数系を扱えることから、その適用範囲はサーボ系からプロセス制御系まで広く及んでいる。また状態空間表現は動的シミュレーションのための重要な概念となる。

本講義では、状態方程式によるモデル表現方法をできる限り平易に解説する。そのために必要となる常微分方程式、行列を復習する。その後、状態フィードバック法によるシステムの安定化、希望する制御性能の達成方法について解説する。さらに、倒立振子を例題として簡単な数値シミュレーションを行い、制御系設計の評価方法を学ぶ。

【学修到達目標】

- ①動的システムの特性と状態方程式表現する手順を理解している。
- ②状態方程式の一般解を理解している。
- ③システムの極を説明できる。
- ④最低レギュレータの考え方を説明できる。
- ⑤オブザーバの設計手順を説明できる。
- ⑥制御系の実装方法を説明できる。

【成績評価の方法】 レポート評価 50%ならびに期末試験 50%

【教科書】

【参考書】 小郷, 美多著 「システム制御理論入門」 実教出版株式会社 吉川, 井村著 「現代制御論」 昭晃堂

【授業の内容】

- ① はじめに
- ② 動的システムと状態方程式
- ③ 状態方程式の一般解
- ④ 状態軌跡
- ⑤ システムの極
- ⑥ 状態フィードバック制御と極配置
- ⑦ 最適レギュレータ(1)
- ⑧ 最適レギュレータ(2)
- ⑨ 最適レギュレータ(3)
- ⑩ 倒立振子モデルの作成
- ⑪ 同一次元オブザーバによる状態推定
- ⑫ 最小次元オブザーバによる状態推定
- ⑬ 制御系の実装
- ⑭ モータの位置決め制御シミュレーション
- ⑮ 倒立振子の状態フィードバック制御シミュレーション

制御工学特別演習 (Seminar on Control Engineering)

選択 2 単位 2 期 教授 尾形 和哉 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

制御工学特論で学んだ理論をシミュレータにより検証する。MATLAB, Scilab は行列演算にすぐれた数値演算アプリケーションであり、豊富な数値関数をもつ。ここでは制御系設計に役立つ関数群があるので、これらを紹介する。最近では Python でも同様な設計解析機能があるので、それについても紹介する。

このようなアプリケーションを利用し、設定値の変化に応じて理想的な目標起動や入力信号を生成するフィードフォワードコントローラの構成を学ぶ。次に、定常変化を零とするためのサーボシステムの構成を学ぶ。後半では、制御対象の数式モデルに誤差がある場合に安定性や制御性能が劣化する現象を学ぶ。これらの性能低下を最小にとどめることができるようなロバスト設計法を紹介する。

【学修到達目標】

- ①制御系設計解析のためのアプリケーションの概要を理解している。
- ②制御系の数値シミュレーションの方法を理解している
- ③制御対象のモデル作成とモデル化誤差の大きさの評価方法を説明できる。
- ④制御系のロバスト安定のための条件を説明できる。
- ⑤ロバスト制御設計の手順を説明できる。

【成績評価の方法】 レポート評価

【教科書】

【参考書】 小郷, 美多著 「システム制御理論入門」 実教出版株式会社 吉川, 井村著 「現代制御論」 昭晃堂

【授業の内容】

- ① はじめに
- ② 制御系設計解析アプリケーション
- ③ フィードフォワードコントローラ的设计
- ④ フィードフォワードコントローラの構成
- ⑤ サーボシステムの設計
- ⑥ モータの位置決め PID 制御
- ⑦ 周波数応答 1
- ⑧ 周波数応答 2
- ⑨ 周波数応答 3
- ⑩ 制御対象のモデル作成とモデル化誤差 1
- ⑪ 制御対象のモデル作成とモデル化誤差 2
- ⑫ ロバスト制御 1
- ⑬ ロバスト制御 2
- ⑭ 総合演習 1
- ⑮ 総合演習 2

情報処理技術特論 (Information Processing Technology)

選択 2単位 2期 教授 篠原 主勲 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

コスト低減を目指した”ものづくり”の開発は重要な課題である。近年、コンピュータが安価になり、手軽に購入できるため、設計開発の現場で CAE(Computer Aided Engineering)ソフトを使う設計者が著しく増加した。また CAE ソフトも進化し、ユーザが CAE ソフトの仕組みを理解せずとも、解析結果を得ることができるようになった。一方で適切な解析条件ではなくとも、なにかしらの計算結果を出力するため、計算した結果が正しいかどうかわからずに、判断できないユーザが増加している。本講義では、適切な解析を行うことができるように、CAE ソフトで用いる有限要素法(FEM: Finite Element Method)で必要となる数学の素養を身につける。

【学修到達目標】

- ① FEM のアルゴリズムの基礎がわかる。
FEM で用いる数学の基礎がわかる。

【授業の内容】

- ① テンソル (行列・ベクトル)、外積 (内積)
- ② ベクトル値関数
- ③ スカラー場とベクトル場
- ④ 線積分と面積分
- ⑤ ガウスの発散定理
- ⑥ ストークスの定理
- ⑦ 全微分
- ⑧ 偏微分
- ⑨ 変分
- ⑩ 重積分
- ⑪ 微分方程式
- ⑫ 偏微分方程式
- ⑬ 行列式
- ⑭ 固有値
- ⑮ 2 次形式

【成績評価の方法】 プレゼンによる発表(25%)、レポート(25%)、中間テスト(25%)、期末テスト(25%)の総合評価

【教科書】 講義日に説明する

【参考書】 Excel による有限要素法—弾性・弾塑性・ポアソン方程式、塾長秘伝 有限要素法の学び方!—設計現場に必要な CAE の基礎知識、図解 設計技術者のための有限要素法ははじめの一步、ベクトル解析、線形代数、現代工学のための変分学入門など

情報処理技術特別演習 (Seminar on Information Processing Technology)

選択 2単位 3期 教授 篠原 主勲 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

本講義を通して、有限要素法とその周辺の知識を習得することを目指す。CAE ソフトのアルゴリズムを総合的に理解する。

【学修到達目標】

FEM による計算結果を評価できる。

【授業の内容】

- ① 有限要素法の基礎
- ② 有限要素法で用いる解析技術
- ③ 有限要素法による定式化
- ④ 有限要素法によるアルゴリズム
- ⑤ 有限要素法で用いる数値計算法
- ⑥ 剛性マトリックス
- ⑦ 要素剛性マトリックスと全体剛性マトリックス
- ⑧ 反復法
- ⑨ ガウスの消去法
- ⑩ ヤコビ法
- ⑪ ガウスザイデル法
- ⑫ SOR 法
- ⑬ 共役勾配法(CG 法)
- ⑭ 前処理付き共役勾配法(ICCG 法)
- ⑮ 大規模並列分散処理(MPI)

【成績評価の方法】 プレゼンによる発表(25%)、レポート(25%)、中間テスト(25%)、期末テスト(25%)の総合評価

【教科書】 講義日に説明する。

【参考書】 Excel による有限要素法—弾性・弾塑性・ポアソン方程式、塾長秘伝 有限要素法の学び方!—設計現場に必要な CAE の基礎知識、図解 設計技術者のための有限要素法ははじめの一步、ベクトル解析、線形代数、現代工学のための変分学入門など

<機械工学専攻：機械システム工学コース>

情報機械特論 (Information and mechanics)

選択 2単位 2期 教授 田中 淑晴 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

経済活動への情報処理技術の浸透および社会インフラ化、産業全般のグローバル大競争の激化等の構造変化の中で、情報処理技術はあらゆる技術者に必須のものとなっている。また、各機械要素の技術発展は日進月歩となっている。本講義では、情報処理技術および機械要素技術について、背景、原理や基礎理論、最新技術、本格的なシステム開発技術、実践的かつ先端的なシステム戦略などについて、毎回受講者が調査してプレゼンテーションとディスカッションを行う形式で学習する。

【学修到達目標】

- ② 情報処理技術の歴史を、例を挙げて説明することができる。
- ③ 最新の情報技術の例を挙げて説明することができる。
- ④ 最新の機械要素技術の例を挙げて説明することができる。
- ⑤ 最新のシステム技術の例を挙げて説明することができる。

【成績評価の方法】 プレゼンによる発表(40%)、受講状況(10%)、レポート(50%)で評価

【教科書】 なし

【参考書】

【授業の内容】

- ① 各技術の基礎
- ② アルゴリズムとプログラミング
- ③ コンピュータ構成要素
- ④ ソフトウェアとハードウェア
- ⑤ ネットワークとセキュリティ
- ⑥ AI・機械学習
- ⑦ IoT・M2M・DX・IT
- ⑧ リレー/PLC シーケンス
- ⑨ アクチュエータ（モータ）とボールねじ
- ⑩ 軸受と直動案内
- ⑪ 歯車とベルト
- ⑫ センサとエンコーダ
- ⑬ 制御手法
- ⑭ 工作機械
- ⑮ システム開発技術

<機械工学専攻：機械システム工学コース>

情報機械特別演習 (Seminar on information and mechanics)

選択 2単位 3期 教授 田中 淑晴 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

本演習を通して、加速度などの物理量の計測、そのためのプログラム作成法、データの取得法の知識を習得することを目指す。また周辺要素の技術およびアルゴリズムを総合的に理解する。

【学修到達目標】

- ① 物理量を計測できる
- ② 計測のためのプログラムを作成できる
- ③ データを取得することができる

【授業の内容】

- ⑯ システムを構成する機器
- ⑰ 計測システムの準備・設定
- ⑱ プログラミング 1
- ⑲ プログラミング 2
- ⑳ プログラミング 3
- 21 物理量の計測 1
- 22 物理量の計測 2
- 23 計測データの抽出 1
- 24 計測データの抽出 2
- 25 計測データの処理 1
- 26 計測データの処理 2
- 27 フィードバック制御 1
- 28 フィードバック制御 2
- 29 自由課題の作成
- 30 総まとめ

【成績評価の方法】 受講状況(20%)、課題(80%)で評価

【教科書】

【参考書】

燃焼工学特論 (Combustion Engineering)

選択 2 単位 2 期 教授 井原 禎貴 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

燃焼現象は、極めて急激な化学反応、発熱、流れ、伝熱などの物理・化学過程が複雑に干渉し合いながら進行する。工業的には、熱機関を駆動したり物体を加熱・加工するために様々な手法で燃焼を利用しており、限りある燃料資源を有効活用するには燃焼の省エネルギー技術が必須である。

本講義では、燃焼現象について基礎的な内容を広く理解する。

【学修到達目標】

- ①燃焼現象の分類を理解している。
- ②予混合燃焼について、化学的・物理的に説明できる。
- ③拡散燃焼について、予混合燃焼と対比させながら説明できる。
- ④燃焼に関連する熱力学、化学平衡、燃焼排出物について説明できる。

【授業の内容】

- ① 燃焼の歴史
- ② 燃焼の開始
- ③ 燃焼現象の分類
- ④ 予混合燃焼 (1)層流燃焼速度
- ⑤ 予混合燃焼 (2)層流火炎
- ⑥ 予混合燃焼 (3)乱流火炎
- ⑦ 予混合燃焼 (4)火炎安定化
- ⑧ 予混合燃焼 (5)Rankin-Hugoniot 方程式
- ⑨ 拡散燃焼 (1)層流拡散火炎
- ⑩ 拡散燃焼 (2)乱流拡散火炎
- ⑪ 反応熱と生成熱
- ⑫ 化学平衡
- ⑬ 断熱火炎温度
- ⑭ 燃焼排出物
- ⑮ まとめ

【成績評価の方法】 レポート評価(100%)

【教科書】 プリント

【参考書】

燃焼工学特別演習 (Seminar on Combustion Engineering)

選択 2 単位 3 期 教授 井原 禎貴 授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

燃焼工学特論で学習した内容の理解を深めるため、燃焼工学に関連する学術論文の調査を受講学生に割り当て、調査内容に関するプレゼンテーションと全員での質疑応答・討論を行う。

また、基本的な化学平衡・断熱火炎速度について実際に解析する。

【学修到達目標】

- ①文献調査内容を理解し、正しく説明できる。
- ②化学平衡・断熱火炎速度の計算手法について理解し、説明できる。

【授業の内容】

- ① 燃焼工学に関する文献調査 1
- ② 燃焼工学に関する文献調査 2
- ③ 燃焼工学に関する文献調査 3
- ④ 燃焼工学に関する文献調査 4
- ⑤ プレゼンテーションと討論 1
- ⑥ プレゼンテーションと討論 2
- ⑦ プレゼンテーションと討論 3
- ⑧ プレゼンテーションと討論 4
- ⑨ 化学平衡の計算 1
- ⑩ 化学平衡の計算 2
- ⑪ 化学平衡の計算 3
- ⑫ 断熱火炎温度の計算 1
- ⑬ 断熱火炎温度の計算 2
- ⑭ 断熱火炎温度の計算 3
- ⑮ まとめと総合演習

【成績評価の方法】 プレゼンテーションおよび討論(50%)と解析演習(50%)で評価

【教科書】 プリント

【参考書】

流体工学特論 (Advanced Fluid Dynamics)

選択 2単位

1期

教授 小里 泰章

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

目に見えない流れ現象を正確に理解することは、エネルギーの有効利用やそれらの制御分野において重要な役割を担う。

本特論では、まず非粘性流れの運動方程式や流れの基本的な運動について学び、続いて粘性流れについて、ナビエ・ストークス方程式を導出し、二平行平板間の流れなど幾つかの厳密解について学習する。さらに、工学的に重要な境界層流れおよび乱流の流れについて理解を深める。

【学修到達目標】

- ① 流体力学の基礎方程式の物理的意味を理解し、導出することができる。
- ② ナビエ・ストークス方程式の導出方法を理解し、説明することができる。
- ③ 境界層流れおよび乱流の特性について説明できる。

【成績評価の方法】小テスト (30%) とレポート (70%) による評価

【教科書】適宜プリントを配布

【参考書】流体力学 日野幹雄 朝倉書店
流体力学 (新物理学シリーズ) 巽友正 培風館

【授業の内容】

- ① 流れを記述する基礎方程式 1
- ② 流れを記述する基礎方程式 2
- ③ 流体の運動 (変形, 回転, 非回転)
- ④ 粘性流体の運動 1
- ⑤ 粘性流体の運動 2
- ⑥ N-S 方程式の厳密解 1
- ⑦ N-S 方程式の厳密解 2
- ⑧ N-S 方程式の厳密解 3
- ⑨ 境界層流れ 1
- ⑩ 境界層流れ 2
- ⑪ 乱流の流れ 1
- ⑫ 乱流の流れ 2
- ⑬ 事例研究 1
- ⑭ 事例研究 2
- ⑮ まとめと総合演習

流体工学特別演習 (Seminar on Advanced Fluid Dynamics)

選択 2単位

2期

教授 小里 泰章

授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)

【授業の概要】

流体工学特論で学習した内容の理解を深めるため、境界層流れや乱流の特性、さらに流れの制御に関して受講学生ごとに割り当てられたテーマに基づいた学術論文を調査し、調査内容に関するプレゼンテーションと全員での討議を行う。

次に、数値流体解析の実際および実験・計算データの解析と処理についても理解を深めるため、シミュレーションソフトウェアを活用した演習を行い、数値解析を実施する上でのポイントやデータの処理について理解する。

【学修到達目標】

- ① 文献調査内容を理解し、正しく説明できる。
- ② 数値流体解析の基本を理解している。
- ③ データの解析と処理の基本を理解している。

【成績評価の方法】プレゼンテーション (60%) と課題 (40%) による評価

【教科書】適宜プリントを配布

【参考書】

【授業の内容】

- ① 境界層流れ・乱流に関する演習 1
- ② 境界層流れ・乱流に関する演習 2
- ③ 境界層流れ・乱流に関する演習 3
- ④ 流れの制御に関する演習 1
- ⑤ 流れの制御に関する演習 2
- ⑥ 流れの制御に関する演習 3
- ⑦ 粘性流れとその制御の総括
- ⑧ 数値流体解析演習 1
- ⑨ 数値流体解析演習 2
- ⑩ 数値流体解析演習 3
- ⑪ 数値流体解析演習 4
- ⑫ データ解析・処理演習 1
- ⑬ データ解析・処理演習 2
- ⑭ 流体解析演習の総括
- ⑮ まとめと総合演習

<機械工学専攻：特別研究>

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 神崎 隆男 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

環境流体力学に関するテーマについて、乱流輸送現象の観点から研究を行う。

大気・海洋中や工業装置内の流体中で生じる、運動量・熱・物質の乱流輸送現象解明に関する研究や、予測手法開発に関する研究を実施する。

【学修到達目標】

- ①実験結果や計算結果を乱流輸送現象に基づいて考察できる。
- ②実験結果や計算結果を図表を用いて文書にとりまとめできる。
- ③実験結果や計算結果を図表を用いてプレゼンテーションできる。

【成績評価の方法】 研究の実施状況と中間報告により総合的に判断する。

【教科書】

【参考書】

【授業の内容】

以下の研究テーマについて、実験的手法や数値シミュレーションを活用し研究を実施する。指導教員と十分な打ち合わせを行い、継続的に研究を実施する。

- ・大気境界層内の乱流構造解明に関する研究
- ・乱流境界層の構造解明に関する研究
- ・沿道大気浄化手法開発に関する研究
- ・大気拡散予測手法に関する研究
- ・風洞実験手法に関する研究

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 白石 裕之 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

航空・熱流体力学分野のうち、
(i)先端科学技術の動向に関連した、新型航空宇宙エンジンの基本構想
(ii)環境問題で重要視されているテーマとしての燃焼・流体騒音について、実験的・数値的研究を実施する。なお、燃焼・流体騒音についてはプラズマ・超音波印加による燃焼実験も併行し、先端航空宇宙エンジンのテーマとしてはレーザー宇宙推進システムを取り上げる。

【学習到達目標】

- ①航空機械騒音の原因について述べ、その対策について論じることができる。
- ②超音波・プラズマの工学分野における有用性について理解し、その発生に関する実践ができる。
- ③航空宇宙シミュレーションの必要性について理解し、音響または熱流体解析の実践方法について論じることができる。

【成績評価の方法】 研究の実施状況および中間報告（文書および口頭）により総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】 音源の流体音響学（コロナ社），宇宙飛行体の熱気体力学（東京大学出版社）

【授業の内容】

研究内容の理解を深めることを重視して、以下の研究テーマに関連する文献の収集を行う。その上で実験・解析の実行評価を実施し、教員と十分に打合せを行いつつ、計画的かつ継続的に研究を推進する。

- ・先端航空宇宙エンジンのプラズマ流動実験・構想検討
- ・プラズマ・超音波印加を含む、燃焼実験・超音速騒音実験の基礎実験・モデル解析

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 高田 健 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

金属材料の強度に影響を及ぼす微量添加元素とそれら添加元素で構成される微細析出物と原子クラスタに対して、その形成・成長および強化機構発現の調査・解明を実験により実施する。

【学修到達目標】

- (1)工業用金属材料の各種強化機構が説明できる。
- (2)各種金属材料に応じた、材料強化機構と金属材料中の析出物と固溶元素の存在状態の解析方法が提案できる。
- (3)微量添加元素による固溶状態と拡散状態を把握し、それらを調査する手段が提案できる。

【授業の内容】

以下の技術および測定・解析方法を習得する。

- ・金属材料の硬さ測定
- ・金属板材料の引張測定
- ・電気抵抗率測定
- ・真空技術
- ・X線解析技術
- ・電子線解析技術
- ・拡散係数導出のための解析技術

上記技術を複数活用することで、以下の現象の理解の深化と新規現象の解明を行う。

- ・金属中添加元素（水素を含む）による固溶強化と拡散現象
- ・金属中微細クラスタの形成、構造、強化機構
- ・金属中微細析出物の形成、構造、強化機構

【成績評価の方法】 実験による新規知見の獲得とその技術報告（学会発表、論文）をもって評価する。

【教科書】

【参考書】

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 田中 浩司 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

今日レーザー加工は切断、接合、コーティング、改質、さらに 3D 造形に利用され、鉄鋼部品の耐久性を高めたり、電磁気製品等の精密アセンブリに欠かせない技術となっている。

本講座では、レーザーの加工特性がマイクロ組織に与える影響を動力学的に解明し、これを生かした加工結果の適正化に向けた研究を行う。

【学習到達目標】

- ①研究のねらい、企業でいう「うれしさ」を常に念頭に置いて研究に取り組める。
- ②相変態論にもとづいて組織変化を説明できる。
- ③金属組織の解析・分析に用いる汎用装置や実験機器の原理を理解し、ひと通り操作できる。
- ④簡潔かつ完全な技術文章を書くことができる。

【授業の内容】

研究の過程として、熔融凝固のモデル実験、雰囲気加熱実験、レーザー加工試験などを実施した後、得られた金属組織を観察、分析し、相変態論に照らして動力学的な解釈を与える。さらに適正な金属組織を持った材料は試験片に加工して、硬さや電気抵抗を評価し、その妥当性を理論式やシミュレーション等と比較して考察する。

上記過程において、各自の研究プロセスを指定の形式にまとめて月 2 回報告し、教員とのディカッションを行うとともに、技術文章について指導する。

予定テーマ：

- ・SKD61 の積層造形における累積的熱影響の解明
- ・レーザー加工による Ag 系接点材の酸化物粒子分散
- ・レーザー造形した Cu-Ni 系複合抵抗材の電気抵抗
- ・Cu-酸化物混合融体の熱力学解析および動的観察

【成績評価の方法】 研究の実施状況および中間の学会発表により総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

<機械工学専攻：特別研究>

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 蔦森 秀夫 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

板材成形に関する研究を行う。特にプレス成形シミュレーションの予測精度向上に関する研究。

【学習到達目標】

- ①研究目的を理解し説明できる。
- ②研究を進めるために周囲に働きかけ、結論を導くまで粘り強く進めることができる。
- ③論文の書き方の基本を理解した上で、研究の結果を専門外の人や後輩が見ても理解できるように詳しく丁寧に論文にまとめることができる。
- ④研究内容を専門外の人にも理解できるようにプレゼンテーションできる。
- ⑤研究内容を学会発表しその質問に対しても適切に対応することができる。

【授業の内容】

以下のテーマ等の個別テーマを設定し、深く追及する。

- ・材料モデリングに関する研究
- ・材料パラメータ同定の方法に関する研究
- ・金型のたわみがプレス成形に与える影響に関する研究
- ・サーボプレスの活用技術に関する研究
- ・プレス成形シミュレーションに用いる摩擦モデルに関する研究
- ・自動車ボディ外板の面品質不良に関する研究
- ・自動車シェルパネルのヘミング成形に関する研究
- ・スプリングバック予測精度向上に関する研究

【成績評価の方法】 研究の進捗状況を定期的に確認し、研究の実施状況によって総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 坪井 涼 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

航空機や摺動部品など幅広いスケールの流れを対象としたテーマに対し、実験的な手法とともに数値流体力学 (Computational Fluid Dynamics, CFD) を用いて研究を行う。

【学修到達目標】

- ①数値流体力学を用いた自作プログラムの作成ができる。
- ②商用ソフトを用いた流れのシミュレーションができる。
- ③シミュレーション結果の妥当性を判断できる。
- ④研究テーマについて必要な実験とシミュレーションの内容を提案できる。
- ⑤シミュレーション結果と実験結果の関係を正確に把握し、説明することができる。

【授業の内容】

以下の研究テーマに関連した内容について、理解を深めるとともに研究を行う。

- ・数値流体力学を用いた流体潤滑シミュレーション
- ・航空機の着氷現象における粗大液滴飛散に関する研究
- ・競技用パドルのまわりの流れに関する研究
- ・居住環境への室内流れの影響

【成績評価の方法】 研究の実施状況および学会発表などにより総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 西脇 武志 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

塑性変形および塑性加工法に関するテーマについて、実験および数値シミュレーションを活用して研究を行う。特に、金属板の加工技術、利用技術を中心とした研究を実施する。

【授業の内容】

以下の研究テーマに関連した内容について、理解を深めるとともに研究を行う。

- ・アルミニウム合金板や高張力鋼板の加工技術の研究
- ・複雑形状の一体化成形技術の研究
- ・最適化を活用した金型設計技術の研究
- ・逆解析による材料パラメータの同定技術
- ・多軸応力下での材料試験の研究
- ・軽量化材料の利用技術に関する研究

【学修到達目標】

- ① 研究目的を深く理解し説明できる。
- ② 研究を遂行するための方法を自ら考案し、実行することができる。
- ③ 実験結果に対する考察ができ、論理的に結論を導くことができる。
- ④ 研究成果を文書にまとめることができる。
- ⑤ 研究成果をプレゼンテーションによって説明できる。

【成績評価の方法】 研究の実施状況および学会発表などにより総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 前田 安郭 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

鋳造 CAE の中の、湯流れ、凝固に関する研究を中心に研究を行う。解析精度、欠陥予測精度を向上させるためには実験とシミュレーションの両面からの研究実施が重要である。加えて、その他の鋳造 CAE ソフトに関する調査及び適用研究も実施する。

【授業の内容】

以下の研究テーマに関連した内容について、理解を深めることを重視して研究を遂行する。

- ・鋳造 CAE における湯流れ・凝固解析精度の向上
- ・鋳造 CAE を用いた欠陥予測方法
- ・鋳造 CAE の解析条件と欠陥予測精度
- ・砂型造型プロセスの搦き固め機構
- ・鋳造 CAE におけるラグランジェ手法の有効性
- ・離散要素法 DEM を用いたシミュレーション

【学習到達目標】

- ① 鋳造 CAE の全般を説明できる。
- ② 鋳造 CAE を用いた鋳造方案設計を理解している。

【成績評価の方法】 研究の実施状況、学会発表、質疑応答などにより総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 准教授 宮本 潤示 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

プラズマを用いた鋼の表面改質処理法や、潤滑油、液体のプラズマ処理の研究を行う。研究の中で、大気圧プラズマ装置や真空プラズマ装置、液中プラズマ装置を主に用いて実験を行う。

【授業の内容】

以下の研究テーマに関連した内容について、文献調査、計画、実験、分析、評価といった一連の研究を行う。必要に応じて装置の設計も行う。

- ・大気圧プラズマを用いた窒化処理に関する研究
- ・プラズマ窒化された鋼の潤滑性に関する研究
- ・プラズマ窒化メカニズムに関する研究
- ・プラズマを用いた潤滑油の性能改善に関する研究
- ・回転式プラズマ窒化処理法の開発
- ・プラズマ窒化された鋼の疲労メカニズムに関する研究
- ・プラズマ窒化された鋼の潤滑性に関する研究
- ・プラズマを用いた粒子分散液体の開発

【学修到達目標】

- ① 研究テーマについて計画を立て、必要な実験を提案し、実行できる。
- ② 窒化層や薄膜、微生物などテーマに沿った測定対象の適切な分析、評価が行える。
- ③ 分析結果の妥当性を判断できる。
- ④ 研究で得られた成果を説明することができる。

【成績評価の方法】 研究の実施状況および学会発表などにより総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

特別研究 I ～IV (Research in Mechanical Engineering I ～IV)

必修 1.5 単位 1～4 期 教授 尾形 和哉 授業時間外の学修 45 時間(毎週 3 時間)

【授業の概要】

ロボットを実用化するためには、様々な技術を統合する能力が必要である。そこで、ロボットに与えたい機能を実現する手段を学び、効率よくシステムを構築する手法を研究する。

同時に、ロボットの運動の数学的背景、物理的背景を学び、単に試行錯誤的な解決手法ではなく、理路整然とした問題解決手法を身に付ける。

人間とロボットが強調作業をする際には、開発したシステムの効用を評価し、システムの改良をしなければならない。そのための手法も検討する。

【授業の内容】

以下の研究テーマに関連する文献を収集することおよび研究内容の理解を深めることを重視して、指導教員と十分に打合せを行いつつ、計画的に継続的に研究する。

- ・遠隔操作ロボットの操作性向上
- ・組立作業ロボットの自律化
- ・自律移動ロボットの行動計画
- ・歩行ロボットの運動学と動力学

【学修到達目標】

- ① 研究テーマに関連する文献を適切に収集できる。
- ② 研究テーマに関連する文献の要点をまとめることができる。
- ③ 研究の進行のための段取りを立てることができる。
- ④ 実験データを取りまとめ、知見を適切にまとめることができる。

【成績評価の方法】 研究の実施状況および中間報告（文書および口頭）により総合的に評価する。

【教科書】

【参考書】

生産管理特論 (Production Management & Control Systems)

選択 1 単位 1 期 非常勤講師 奥村 文徳 授業時間外の学修 30 時間(毎週 2 時間)

【授業の概要】

- トヨタ生産システムの取り組みを題材に、事業経営という視点から生産管理を概観する。
- 毎時間、基本概念の意味や意義、具体例の説明を行うとともに、問いかけやディスカッション、小レポート提出による授業進行を行う。
- 最終週までに取り組みたいテーマを見つけ、最終レポートを作成、提出する。

【学修到達目標】

- TPS と TOC の概要を説明できる。
- TPS の適用のしやすさが、どんな要素で決まるかを理解している。
- プロジェクト型業務に関する生産管理の方法を説明できる。
- 実際にプロジェクト型業務の生産管理を適切に行える。
- 品質工学的なアプローチを説明できる。

【授業の内容】

- ガイダンス、序論
 - 講義方針・内容の紹介
 - 概念定義（生産，管理，生産性他）
- 経営戦略と生産管理
 - 経営戦略のエッセンス（環境分析，ドメイン，成長戦略，競争戦略）
 - マーケティングのエッセンス（マーケティング戦略，需要の三要素）
- トヨタ生産システム(TPS)における生産統制の特徴
 - JIT，自働化
- トヨタ生産システム(TPS)における生産統制の前提条件
 - 需要の平準化と小ロット混流生産
- 生産管理における統計的データの意味と限界
 - 生産管理における平均とバラツキの意味
 - 品質工学的アプローチの意味
- 生産の全体最適
 - TPS と TOC(制約理論)の対比
 - SCM，グローバル化する市場と生産拠点の立地
- プロジェクト型業務の生産管理
 - 生産計画と生産統制
 - 経営資源と生産管理
- 生産管理の実務
 - PDCA サイクル
 - 改善活動と生産システム

【成績評価の方法】 講義における小レポートやディスカッションでの参加態度(50%)と最終レポート評価(50%)

【教科書】 特になし。

【参考書】 「トヨタ生産システム」 (ダイヤモンド社、大野耐一)

「近代品質管理」 (コロナ社、野村 重信・福田 康明・仁科健)

<全研究科共通科目>

学外研修 (Internship)

選択	2 単位	1(2)期	専攻長	授業時間外の学修 60 時間(毎週 4 時間)
【実習の概要】 <p>企業または官公庁において、実務に関する研修を行う。実務には、生産、設計・監理、調査計画等広範な分野があり、希望する分野で最適な研修先を選定する。本学のキャリアセンターでは、研修先の事前登録制度があり密接な連携をとるようにする。</p>			【授業の内容】 <p>実務の理解とともに自身の方向付けやスキルアップを目的とし、将来をより良くすることに役立つように受け入れ先と研修内容を十分協議して計画する。</p> <p>実際の学外研修は以下の3段階で行う。</p> <ul style="list-style-type: none">・受け入れ先との事前研修・受け入れ先での学外研修・学外研修報告	
【学修到達目標】 <ol style="list-style-type: none">① 企業または官公庁における実務の概要について説明できる。② 企業または官公庁における実務の一部について詳細に説明できる。③ 企業または官公庁における実務を理解したうえで、将来の自らの社会活動のあるべき姿について説明できる。				
【成績評価の方法】 受け入れ企業等からの評価、研修報告書、研修報告				
【教科書】				
【参考書】				

ベンチャービジネス特論 (Venture Business)

授業時間外の学修 30 時間(毎週 2 時間)

選択	1 単位	1 期	非常勤講師	武藤 郷史
【授業の概要】 <p>我が国のイノベーションを牽引するベンチャー（スタートアップ）ビジネスの必要性を理解するとともに、実例やワークを元にベンチャー（スタートアップ）ビジネス成功のエッセンスを学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none">(1)我が国の経済環境から、ベンチャー（スタートアップ）ビジネスおよびベンチャー（スタートアップ）支援政策のメガトレンドを理解する。(2)その上で、成功するベンチャー（スタートアップ）起業家の特性を把握し、どのようにしてビジネスモデルを構築していくかを考える。(3)ベンチャー（スタートアップ）マネジメントは一般企業と特性が異なり、また成長過程ごとに課題が変化する。そのポイントを考察する。(4)ベンチャー（スタートアップ）ビジネス成功のためのエッセンスを理解し、ビジネスプランの書き方を学ぶ。			【授業の内容】 <ol style="list-style-type: none">① 我が国におけるベンチャー（スタートアップ）企業の必要性<ul style="list-style-type: none">・我が国経済におけるベンチャー（スタートアップ）ビジネスの役割② イノベーションをおこすベンチャー（スタートアップ）企業<ul style="list-style-type: none">・ベンチャー（スタートアップ）ビジネスがおこすイノベーションとは。③ 成功するベンチャー（スタートアップ）起業家の特性<ul style="list-style-type: none">・成功する起業家のエッセンス④ ベンチャー（スタートアップ）マネジメントの留意点<ul style="list-style-type: none">・ベンチャー（スタートアップ）マネジメントの特性・成長ステージごとの経営のポイント⑤ ビジネスプランの役割<ul style="list-style-type: none">・ベンチャー（スタートアップ）戦略とビジネスプラン⑥ ビジネスプランの書き方<ul style="list-style-type: none">・ビジネスプランの展開方法⑦ 発表	
【学修到達目標】 <ol style="list-style-type: none">① ベンチャー（スタートアップ）戦略の概要を理解し、戦略設計の基本フレームを使った事業コンセプト設計を実践できる② 基本的なビジネスプランの骨子が描けるようになる				
【成績評価の方法】 講義での討論(30%)とレポート評価(70%)				
【教科書】 資料配布				
【参考書】				

<全研究科共通科目>

経済学特論 (Economics)

選択 1 単位 1 期 非常勤講師 竹内 道子

【授業の概要】

本授業では、社会に踏み出す前の大学院生にとって不可欠なお金の基本知識を習得します。お金の本質や経済・金融の仕組み、生活設計、資産管理、金融機関の機能、クレジットカード、借金、投資戦略、税金、制度、法律に焦点を当て、実践的な知識を通じて、経済的な自立を果たすための賢明な意思決定基準を身につけます。増加の一途をたどる投資詐欺についても理解を深め、変化の激しい社会の中で充実したライフプランを主体的に実現するための礎とします。

【授業の内容】

1. お金の概念と経済・金融の仕組み
2. 生活設計と資産管理
3. 投資・運用の基本
4. 株式投資と財務諸表
5. 債券投資と金利
6. 資産形成制度と税金
～新しいNISA制度・iDeCo～
7. まとめと質疑応答

【学修到達目標】

社会に出る前に知っておきたいお金の基礎知識を得ている。

【成績評価の方法】 授業毎のコメントシート(感想)(70%)、レポート(修了時)(30%)

【教科書】 特になし

【参考書】 教科書・参考書は特になく、授業毎に講義資料を配布する。

地球環境科学特論 (Global Environmental Science)

選択 1 単位 1 期 非常勤講師 大宮 雄一

授業時間外の学修 30 時間(毎週 2 時間)

【講義の概要】

- (1) 地球が誕生してから現在までの温度、温室効果ガス大気中濃度などの環境変化を定量的に把握する。
- (2) 産業革命以降、地球環境が激変する中で発生した環境問題を原因、社会活動への影響など多面的に理解する。
- (3) 地球規模の気候変動問題に焦点を当て、激甚化する自然災害などの発生メカニズムを理解する。さらに問題解決に向けた世界各国、企業などの取組を紹介する。
- (4) 土木行政に携わる講師の業務経験等に基づき、身近な環境問題への取組を紹介する。
- (5) 環境問題を通じて、技術士の総合技術監理における 5 つの管理技術(経済性管理、人的資源管理、情報管理、安全管理、社会環境管理)について、実例を踏まえて学ぶ。
- (6) 受講者の研究分野の今後を展望し、地球環境問題の解決に向け、技術者として期待されている点を学ぶ。

【講義の内容】

- ① 地球環境の変遷
- ② 地球規模の気候変動問題
 - ・地球温暖化のメカニズム
 - ・各種機関による将来予測結果
 - ・地球温暖化に伴う自然災害
- ③ 問題解決に向けた各種取組
 - ・国連気候変動枠組条約締約国会議(COP)の経緯(京都議定書、パリ協定)
 - ・SDGsの目標と取組
 - ・我が国のエネルギー基本計画
- ④ 身近な環境問題への取組
 - ・インフラ整備におけるカーボンニュートラルに向けた取組
- ⑤ 総合技術監理における 5 つの管理技術
 - ・トレードオフの関係
 - ・リスクマネジメント
- ⑥ これからの時代を担う技術者に求められる環境問題に対する取組
 - ・技術者倫理

【学修到達目標】

- ① 地球環境問題を大局的に捉える観点を習得できる。
- ② 問題解決に向けた各国の取組を理解し、受講者個人の意見を形成できる。
- ③ 受講者の研究内容が社会環境へ与える影響を想像することによって、技術者としての視野を広げることができる。

【成績評価の方法】 レポート評価(100%)

【教科書】 配付資料

【参考書】 なし

外国文化特論 (Foreign Culture)

選択

1 単位

2 期

非常勤講師

クレムス メツラー

授業時間外の学修 30 時間(毎週 2 時間)

【講義の概要】

西洋の映像文化を多様な角度 から分析・説明する。学生の外国文化への幅を広げる。

文化的要素が人々の生活を形成する際に重要な役割を演じる事の理解度を深める。自分の国の文化に対する新しい展望を提供する。

ヨーロッパと日本で得た経験・知見を織り込んだ講義内容

【学修到達目標】

- ①ヨーロッパ文化の社会、宗教、歴史的な背景を理解することができる。
- ②ヨーロッパの建築様式および美術様式を概説することができる。
- ③現代ドイツの経済や産業の源泉について探ることができる。
- ④日本文化を海外の視点で見ることができる。

【授業の内容】

[1] オリエンテーション、自己紹介：日本在住 25 年のドイツ人デザイナー。現在のヨーロッパについて

[2] ヨーロッパとキリスト教：源泉／歴史／文化的影響、ユダヤ教／イスラム教 (前半)

[3] ヨーロッパとキリスト教：源泉／歴史／文化的影響、ユダヤ教／イスラム教 (後半)

[4] ドイツの日常生活：民族の祭りと風俗慣、食文化、伝統、学制、西ドイツ／東ドイツ、他について (前半)

[5] ドイツの日常生活：民族の祭りと風俗慣、食文化、伝統、学制、西ドイツ／東ドイツ、他について (後半)

[6] 欧米の文化史：製品のデザイン史、大量生産性と美、ドイツのデザインの始まり、“Made in Germany” から “Designed in Germany” へ、ポルシェ と フォルクスワーゲン社、バウハウス から アップル まで、現在」

[7] まとめと自由討論

講義の最後は全員で自由討論、意見交換する。

注：外国人留学生が出席する場合には、英語（及ドイツ語）での説明も可能。

【成績評価の方法】 講義での討論(30%)、レポート提出及びショートレクチャー(70%)による総合評価

【教科書】 使用しない

【参考書】 特になし (授業の中で紹介する)

【連絡先】 メール：hello@clemensmetzler.com
